



新編
古今圖書集成
中

中



本朝名公墨寶卷之中

目錄

伏見院

後伏見院

為圓親王



為道親王

為鎮親王

為朝親王

為純親王

近衛國白儀基

本門沐光悅

伏見院

山
廬
採
薇

雲
不
狀

洞中栽樹

鶴先知

鳳池後面

新煉月

龍關前頭

薄暮山

擊豹印肘

葉葉露

心睡甲日

偏花風

落枕波聲

分岸一夢

菊 道板心

あまの

生る

じ め の 心

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

かきくはひふ

いろはなはなはな

あはれはなはな

あはれはなはな

あはれ

あはれはなはな

あはれはなはな

あはれ

あはれはなはな

あはれはなはな

冬ふゆの松まつは心こころ

かたね

花はなと

本ほん乃の百ひゃく

君きみ

あま

あ

雪ゆきは物もの集あつめ

も海うみと色いろににああるる

かかくくああままははしし

ああままののこころろ

ああままののこころろ

竹竿了以之

願總

多

賣藥修琴

歸去逢山風

吹東桂花枝

世間甲子須
建の壺若仙
人後省其奈

母のふりば夢
うたひのなほ
あふゆめさ
あふくみれ

らさかーにあさぬ

いさかおさか

乃

あかきよき

うさか

字も

贈一品為圓親王

看子夜凍

聲了不致

老弱手足

續相為

十月江南天

氣好可憐冬

氣似春華

七反夫氣倍

例下官住取

屋右官未白

通式七一白如遊

如替入不知為方

了總心不從

花裝給少何

欲從車馬約大
河過車馬過是
知如也然為法也

厚人志便也
又漢友者微生
可屈死於在位院

内原金龜行

酒烟寫其水吟

美室各一以奇

散越涯素志以

瑞庭又亦相老

秋毛尺百尺子

獨扣的榴散
三三納涼く地
河心白雲動

年無好詩
早の三時中
如如名風一掃

三教之始亦皆有一源

之流乃始之也

河朔之飲飲的也

可來高而德也

乃如也

海濱之成也

海湧之直下無底
旁無龜雲瀟灑浪
竅深處人傳中有
三神山之生不死

藥服之羽化為仙人
秦皇漢武信此謠方
士年之採藥去蓬萊
今古但聞名大山茫茫

無負處海濤之風
浩之眼字不見蒼
萊鳩不見蒼萊不
敢歸童男朴女舟

中一先徐福文歲多
遊地之元右一處祠
橋夾表灑山塚上杜
陵頭萊一死忠風

吹簫弄笛何晚忘
元皇祖天子
業不言仙上
白日孫

白之
交
起
心

みくの人

かきくわんせう

ていじん

いせ

あ

花のふぢ

たけ

あ

あゆ

あゆ

たねふ

らあ葉

え

らあ葉

らあ

て

らあ

らあ葉

らあ

らあ

らあ

ちあ

らあ

らあ

ちあ

らあ

ちあ

らあ

ちあ

らあ

らあ

ふのちかたふ

の美しき

あはれ

あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

一品道人親王

三山ふたつ

ふたつ

あはれ

新 彦 老 黄

老 嬾

新 彦 三 分

半 新 屯 一 白

あはれ原あり

はあみまは

かすり
るる

みまの

あはれ

あはれ
も

叙やりのこころ

あつらひ多

こころ

ふふふ
はらへ

ふふふ
はらへ

二品親王号鎮

ふふ
藤露庭

翠竹
紗花色

煙中
雲多勢

たさぬる程の

庭より白糸

如く
あらし

梅の心
を

之を
乃と見ん

不堪紅葉

青苔地

又乞涼風

蒼蒼天

高き松を時ぬる心
いづも山に響
した葉のさざめ
ゆきまにけり

二品号朝親王

風生竹葉空
閑外身照松

河津春とり

苗春不用開

城園花落随

風多入 香

夕よのこゝろ 香

花をさかすなみ

寺門之石也

記乃之

力也

當青蓮院殿三品普純親王

池冷冰無三
伏友松子風
有 一 聲 林

馬の針乃い

井此之川

おのひ
ひすいあ

い
て

る
なふ
如

清
智
有
静

溪
静
を

落日橋高

林深長

ひかりは

海を渡る

れは

あま

あま

け

近衛殿信基

錦懷曉開雲

母殿白珠秋

寫水精盤

いさるたはせ

さあせはるる

人つらう

さう

行言見月湯

心色夜雨函

猿断腸拜

ちけぬる路の

かゆるし如魔の

いふかゝるを

たき乃志の風

本阿弥光悦

常

ふらふら

乃也流

あ

しん
しん
しん

しん
しん

しん
しん

しん
しん

しん
しん

しん

しん
しん

しん
しん

5 11

Red Pine

Perpetua

Red

—

Red

Perpetua

~

Perpetua

Red

—

意

之

意

修

之

志

修

之

初

志

修

初

志

修

修

人

衣

一

一

一

一

一

之

之

是乃

一

中卷終

了

